■受講料　5,500円（消費税込）
■定員　80人
■継続学習　ＣＰＤＳ３ユニット
■申込方法　建通新聞ホームページ
（https://www.kentsu.co.jp/seminar/）
からお申し込みください。
■問い合わせ先　四国支社
電話087（835）1900

建通新聞社

解体工事は
(株)ゼファロス
☎(0875)83-5944

1日）
1線舗
（木太
福建設
⑫12
つき団
修工事
ニモト

（予）4225万　（低）38
70万1千

▽陶最終処分場第3処分地堰堤整備工事（2工区）（綾川町陶地内）
3098万5千
山田建設興業
（予）3439万　（低）30
98万5千

▽学校松並線道路改良工事（松並町地内）
7702万4千
エフワン建設
（予）8511万　（低）76
93万9千

●三木町（10月2日）

▽令和6年度公共下水道北部地区池戸3工区管渠布設工事（大字池戸地内）
1億0900万
山政建設
（予）1億0904万4千

▽令和6年度三木町B&G海洋センター防災倉庫新築工事設計施工監理業務（大字上高岡地内）
63万
鎌田建築設計事務所
（予）73万6千

●琴平町（10月1日公表）

▽令和6年度琴平町立統合小学校及び統合認定こども園（仮称）建設工事基本設計業務
特定　清和設計事務所

三豊市　宝山湖公園のネーミング契約

宝山湖OKURAボールパークに
大倉工業と締結

三豊市は、大倉工業（丸亀市）との間に宝山湖公園のネーミングライツパートナー契約を締結した。三豊市内の公共施設でのネーミングライツ導入は初。愛称は「宝山湖OKURAボールパーク」となる。契約期間は11月1日から2030年3月末まで。命名権料は年550万円。

同社は建材製造・加工工場が市内にあることや、経営理念である「地域社会への貢献」に力を入れていることから命名権を取得した。今後は市と連携し、地域活性化やスポーツ振興に取り組む方針だ。

香建協

石田高生を受け入れインターンシップ実施

香川県建設業協会（森田紘一会長）は2～4日の3日間、石田高校の生徒を対象にインターンシップを実施した。

同協会長尾支部（富田隆弘支部長）会員12社が同校の農業土木科2年生26人を受け入れ、生徒は各社の工事現場で測量などの現場実習を行った。

同協会では1998年から県内高校生を対象にインターンシップを実施、2023年までに延べ3195人を受け入れた。石田高校は14年から23年まで延べ268人の生徒がインターンシップに参加している。

同協会が実施するインターンシップに参加する各校の進路担当者からは「生徒が就職先を決断する際にはインターンシップや企業見学などの体験が基になっている」などの意見もあり、進路選択の際の貴重な機会であると捉えている。

6月には同協会建築部会（三日月善夫部会長）、中讃支部（中村敏浩支部長）、西讃支部（朝倉一郎支部長）の会員が高松工芸高校と坂出工業高校の建築科、多度津高校の土木科と建築科の生徒を受け入れた。

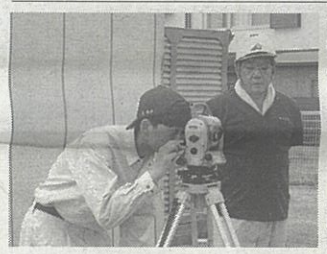
12月12、13日には高松支部（村上博信支部長）会員が高松南高校環境科学科の生徒を受け入れる。

測量機器の実習など体験

■赤澤組（東かがわ市）

赤澤組（東かがわ市）は、石田高校農業土木科の生徒2人を受け入れ、インターンシップを行った。

1日目は、東かがわ市のため池改修工事現場を見学した他、同社川東倉庫で測量機器の実習＝写真＝やドローン操作を体験した。2日目は同社津田支店事務所で工事の受注から工事完成の流れ、積算計算、土木施工管理を実施した。3日目は設計書の見方、CAD図面の作成、安全教育、写真管理・出来高管理を学んだ。



生徒は「学校とは違う学びがある。実際経験すると楽しい」「就職先はまだ決めていない。建設業も選択肢の一つにしたい」と話した。

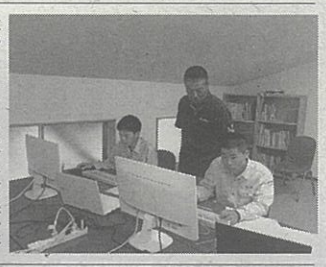
インターンシップを担当した山奥淳氏は「昔の建設業とは違うところを理解してほしい。建設業に少しでも興味を持ってもらえたら」と期待を寄せた。

CADデータ作成など実践

■和光建設（東かがわ市）

和光建設（東かがわ市）は、石田高校農業土木科の生徒2人を受け入れ、インターンシップを行った。

1日目は、県道志度山川線道路維持修繕工事や三木町橋梁長寿命化修繕工事の舗装工事現場を見学。2日目は、本社事務所で測量機器の実習やCADデータ作成などを実践した＝写真。3日目はコンクリートプラントや合材プラントを見学した後、遠隔臨場なども体験した。



生徒は「学校の授業よりも新鮮だ。勉強してきたことを実際に見ることで、より理解できた」「建設業の仕事は上下関係が厳しいと思っていた。実際はとても楽しそうで、就職の選択肢の一つとして考えたい」と話した。

インターンシップを担当した長谷川崇専務取締役は「働き方改革など、建設業も昔と大きく変わってきた。興味を持ってもらい、できれば建設業界に入ってほしい」と感想を述べた。

コンクリート打設作業など体験

■十川組（三木町）

十川組（三木町）は、石田高校農業土木科の2年生2人を受け入れた。2日は本社で土木・外構・基礎の3部門について説明を受けた後、民間住宅新築工事など3現場を見学した。

さぬき市で日進堂（高松市）が施工している民間住宅新築工事の現場見学では、立ち上りコンクリート打設作業を体験＝写真。作業員のサポートを借りながら、作業の手順などについて学んだ。

体験した生徒は、「気泡抜きの作業など、コンクリート打設の手順について実践的な学びができた。貴重な経験だった」とし、「将来は建設業に携わりたいと思う気持ちが強くなった」と話した。

インターンシップを担当した同社土木工事事業部の小檜博晃工事主任は、「体験を通じて現場の面白さを知ってもらえれば幸いだ。インターンシップの参加者から建設業に入職する人が一人でも多くなってくれるとうれしい」と期待を寄せた。

生徒の記憶に残る実習を

■谷井建設（三木町）

谷井建設（三木町）は、石田高校農業土木科の生徒2人を受け入れ、インターンシップを行った。

1日目は、水道工事現場とほ場整備工事現場を見学。施工中のほ場整備工事現場では測量の実習を行った＝写真。オートレベルによる起工測量からスマホを使用した3D点群測量まで実施。生徒は2人とも就職希望で「将来は現場監督を目指したい。今回の体験を将来の進路選択の参考にしたい」と前向きだ。

生徒に同行した谷井義友社長は「地元建設会社も週休2日の導入など福利厚生面も充実させている。短期間であるが共に汗を流し、学校で体験できない実習を提供し少しでも現場のダイナミックさややりがいを感じてほしい。しっかりコミュニケーションをとりながら生徒の記憶に残るインターンシップにしたい」と思いを述べた。